

■児童・生徒の学力の状況

- 「全国学力・学習状況調査」の結果から、国語・英語では「書くこと」の領域や、記述式の問題に対する正答率が低い。数学では、問題を読み解いて答える選択形式の問題の正答率が低い。
- 授業では、意欲的に学習に取り組む生徒が多いが、国語では「根拠を明確にして考えて書く」、英語では「日常的・社会的な話題について自分の考えと理由を書く」、数学では「データを読み取り説明する・証明する」等の問題解決に向け、論理的に考え、自分の意見を表現する活動が苦手な生徒が多い。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題 ※「読み解く力」の育成を踏まえて

- 生徒が主体的に学習に取り組む時間が十分に確保できていない。特に、課題解決に向けたOutput、まとめ・振り返りの時間を十分に確保し、生徒の伝える力・書く力の育成に、一層、力を入れる必要がある。
- 各教科の学習と総合的な学習の時間をつなげ、一人一台端末を、問題解決の過程の様々な場面で、効果的に活用していく必要がある。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

- 生徒が「主体的・対話的で深い学び」「協働的・探究的・問題解決的な学び」を展開し、「個別最適な学び」を実現していくよう「学び」を生活につなげる取り組みができる授業改善を進める。
- 生徒自身さらには社会全体の未来を切り開くための「キャリア教育」をテーマに、小中一貫教育、板橋区コミュニティ・スクールの活用など他機関との連携を推進する。
- 「板橋区授業スタンダード」を徹底し、見通しをもたせた授業を展開し、基礎的・基本的な学力の定着と思考力・判断力・表現力等の育成を図る。
- 家庭学習の習慣化（1年70分　2年80分　3年90分）を図り、自分で計画を立てて学習を進めていく学び方の指導を行い、生徒自らが課題を見つけ出し、主体的に取り組む態度の育成を推進する。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードの徹底	読み解く力の育成	総合的な学習の時間との連携

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○若木小学校・中台小学校との学びのエリア研修による9年間を通した読み解く力の育成、総合的な学習の時間の年間計画を作成・実践していく。 ○児童・生徒の行事における交流の場を設ける。	○指導力向上推進校として、今年度の校内研究テーマを「生徒の主体的な学びを重視した授業の工夫・改善～教科のつながりから探究へ～」と設定し、生徒の思考力・判断力・表現力を高めるために教科のつながりを意識させる授業を展開し、その中で培った「協働的な学び」及び「主体的で対話的な学習態度」を「探究」につなげていく。	○各教科の学習と総合的な学習の時間をつなげ、一人一台端末を、問題解決の過程の様々な場面（課題設定、情報収集、整理分析、まとめ・表現）で、効果的に活用していく。

